

各地の取り組み — 佐賀県における植物防疫業務 —

佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 稲田 稔

■佐賀県農業の概要

北部九州に位置する佐賀県では、温暖な気候の下、夏季は米とダイズ、冬季はムギとタマネギなどを組み合わせた生産性の高い土地利用型農業が展開され、耕地利用率は 30 年連続日本一となっている。米の主要品種は、「さがびより」、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」であり、特に、県育成品種の「さがびより」は、米の食味ランキングで最高評価の特 A を 7 年連続で取得するなど、高い評価を得ている。また、ビール原料となる二条大麦、タマネギ、イチゴ、ハウスマカン、肉用牛などの生産も盛んで、地域ごとに特色ある農業が展開されている。

■防除所の沿革

1952 年に「病害虫防除所」として開設され、1970 年には 8 ケ所の防除所が「植物病害虫防除所」として統合された。その後、1999 年に専門技術員を加えた組織へと再編され、現在の「農業技術防除センター」となった。職員は、所長 1 名、植物防疫を所管する病害虫防除部 6 名の他、専門技術部 9 名の合計 16 名で構成され、病害虫担当の専門技術員は配置されていないが、両部でその役割を補完している。また、各試験研究機関の病害虫防除担当職員 4 名が兼務職員として配置されている。

■業務の内容

当センター病害虫防除部の主な業務内容は以下のとおりである。

1 病害虫の発生予察

本県では、15 作物、のべ 143 病害虫を対象とし、職員による 1～2 回/月の現地巡回調査 (238 ほ場)、予察灯 (5 カ所)、フェロモン及びライトトラップ (30 カ所) 調査に加え、各地域に配置した病害虫防除員 (JA 職員及び農家 23 名) の調査データを基に発生予察情報等を発表している。2016 年度は、毎月の予報 13 回、注意報 5 回 (果樹カメムシ類、野菜類等のハスモンヨトウ等)、警報 1 回 (タマネギべと病)、特殊報 1 回 (トマト黄化病)、病害虫対策資料 22 回の計 42 回の発信を行った。

2 病害虫の防除指導

現地での適切な防除を推進するため、病害虫の診断 (2016 年度: 311 件)、イネ縞葉枯病ウイルスの媒介虫であるヒメトビウンカの保毒虫率、トビイロウンカの各種薬剤感受性の調査を実施し情報を発信している。なかでも、ウイルス病の診断には、迅速性が求められる。そこで、特に診断件数が多いキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス (MYSV) を対象とし、九州・沖縄農業研究センターの協力を得て、RIPA (Rapid Immunofilter Paper Assay) による迅速検出法の利用に取り組んだ。普及センター職員を対象とした技術研修会において、最短 10 分で本ウイルスを検出できる本法の評価は高く、今後、現場

で迅速な対応を行うためのツールとして活用できると考えている。また、本県では 2016 年産タマネギにおいてべと病により甚大な被害を受けた。当センターでは、毎月の発生予察情報に加え、平成 27 年度病害虫対策資料第 17 号、同年度発生予察注意報第 9 号及び第 10 号、平成 28 年度発生予察警報第 1 号を発表し防除の徹底を呼びかけたものの、被害の拡大を防ぐことができなかった。本病を安定的に防除するには、新たな対策の確立が必要であることから、現在、佐賀県、九州沖縄農業研究センター、佐賀大学、兵庫県の共同研究による防除技術の開発が進められており、得られた成果を現地の防除対策に組み込んでいくこととしている。



図 普及センター職員を対象とした MYSV 検出技術の研修会

3 農薬の適正な流通、販売及び使用の指導

農薬の適正な流通、販売を推進するため、農薬販売者に対する立ち入り検査を実施している。また、出荷前の農作物について GC-MS による残留農薬分析を実施し、生産現場での農薬の安全使用の徹底を指導している。

■課題

気候変動や栽培様式の多様化、薬剤耐性菌、抵抗性害虫および侵入病害虫の発生など、生産現場では病害虫の多発生につながるリスクを抱えながら栽培が行われている。このような中、今後とも安定生産を継続するには、これらに対応した防除対策を確立、実施する必要があり、現場に存在するリスクを把握して課題を明らかとし、被害発生前から改善を進める取り組みが欠かせない。当センターの強みは、県内各地域における病害虫の発生を網羅的に把握していることであり、現地の防除対策とその効果を検証し、関係機関と連携しながら防除対策の改善を推進する中核的な機関としての働きが必要である。そのため、個々の職員の観察力や課題解決力の向上を図るとともに、職員が慣行にとらわれることなく真に必要な業務に集中できるよう、組織として各業務の必要性を検討し見直しを進めることも必要と考えている。